

## 「コンピュータの利用頻度アンケート」からの考察

これまでの研究を現場に生かそうと考えたとき、最もネックになってくるのは、ハードウェア的な環境と、それらの現実的な利用頻度である。

実際、筆者の前任校のコンピュータ室は、週のほとんどが、コンピュータの授業(情報基礎・ワープロ・インターネット・Visual Basic等)で埋まっている。(空きはLHRを含めた3時間のみ)

他校でも似たような現実なのでは、このような研究を生かす土壌がないのではと憂い、筆者は、他校のコンピュータ利用頻度の調査の必要性を感じた。

まず、教育委員会や数学部会にあたってみたが、筆者が最も知りたい質問(5番)についての調査資料はなかった。

そこで、他校にアンケートを依頼することとした。幸いなことに、筆者は前任校設立3年目より勤務し昨年で15年目となっていた。

これまで前任校から転勤された先生方(特に今回は全日制普通科に焦点をあてた)に調査依頼することを考え、さっそくアンケートを作って郵送してみると、ほとんどの先生方から回答をいただくことができ46校分のデータが集まった。

そして、学区も特定の地域に片寄らず、全県的なところからデータを得られた。

また46という数字は、県立の全日制普通科高校143校中の約3分の1となり、この中には、いわゆる伝統校や課題集中校も含まれており、この資料から「全日制普通科」においての全県的な状況が推測できるものと言える。

尚、本調査は1999年7月に実施したものである。

回答をいただいた学区別の数(計46校)

横浜東部(6)、横浜北部(4)、横浜西部(6)、  
横浜中部(1)、横浜南部(1)、横浜臨海(3)、  
横須賀三浦(5)、鎌倉藤沢(2)、川崎南部(4)  
川崎北部(6)、茅ヶ崎(0)、平塚(0)、秦野伊勢原(1)  
県西(1)、厚木海老名愛甲(1)、大和座間綾瀬(4)  
相模原南部(0)、相模原北部津久井(1)

これらの集計結果から、おおむね次のような状況が見えてきたと言える。

生徒用のコンピュータは各高校少なくとも20台は入っている。そしてそのOSの多くは「Windows95」である。コンピュータそのものの授業は、半数以下の高校で実施されている。そしてその授業以外では、コンピュータ室はあまり使われていない傾向にある。また、使用されたとしても、その使用法は、いわゆるソフトを使ってのコンピュータ本来の使用もあれば、ビデオ機器的な利用もあり、さまざまである。

そして私が最も知りたかった『「Windows」で利用頻度が「ア」又は「イ」の高校』は「Windows95」で見ると31校(67.4%)、これに「Windows3.1」の6校も加えた37校で考えると(80.4%)となる。よって、以上のことから、コンピュータを活用した授業は、ハードウェア的部分及び校内のコンピュータ室の利用状況の差はあるものの他校でも実施できる可能性が高いことがわかった。

さらに、平成15(2003)年から実施される「新学習指導要領」により、教科「情報」が普通科に誕生することとなる。これにより、一層コンピュータの導入が進むことが予測され、現在「MS-DOS」または「Windows3.1」のところも機器の更新により「Windows98」もしくはそれ以降が導入される可能性が高く「コンピュータを活用した授業の実践」は、さらにやりやすいものとなるであろう。

今後さらに、活用におけるメリット・デメリットについて、授業実践・調査を通した研究を推進していきたいと考えている。

### 謝 辞

お忙しい中、調査に協力していただきました先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。